|  |
| --- |
| ○○とパーキンソン様○○障害 |
| 愛知　太郎1，名古屋　仁2  （1中部医科大・医学部・内科，2大名古屋平成大・メディカルバイオ） |
| ○○を用いて、○○を開発し、○○の解析にも対応できる○○を進めている。○○○においては、○○の破壊は運動量の低下を示さないが、○○阻害剤○○の解析から○○が分布していることが明らかとなった。  ○○遺伝子の変異はヒトでは、パーキンソン様運動異常を示すことが判明している。今回、University College △△のProf. ○○のグループとの共同研究で、作成された○○運動異常について解析したところ○○とする所見を得た。個体を用いた○○解析からは、○○が明らかとなり、また○○○○　○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○であった。 |